

## PF 懇談会だより

### この2年間のPF 懇談会活動を振り返って

前PF 懇談会会長 村上洋一

PF 懇談会の運営委員・ユーザーグループ（UG）代表者・幹事、そしてPF 執行部をはじめとするPF スタッフの皆様など、数多の方々のご援助を得ることにより、何とか2年間のPF 懇談会会長職を務めさせて頂くことができました。まず、この場を借りて御礼を申し上げたいと思います。十分に務めを果たせたかどうか分かりませんが、以下に2年間の懇談会活動を簡単にまとめ、懇談会会員の皆様へのご報告に代えさせて頂きます。

#### 1. PF 懇談会の活性化

2年前、懇談会活動を始めるにあたって、前会長の雨宮先生、PF 執行部の方々、そして下村物構研所長と意見交換をさせて頂きました。その際、議論の中心となったことは、どのようにして懇談会の活動を活性化させるかということでした。懇談会はUGから成っていますので、懇談会の活性化とは即ちUG活動の活性化ということになります。そこで、懇談会運営委員やUG代表者の方々と議論させて頂いた結果、これまで10年以上続いてきたUGシステムの再構築を行うことにしました。これを機に、UGには時限を設け、これまでの研究活動を総括して貰うと共に、今後の研究活動計画をまとめて頂きました。また、新たなUG設立のご提案も募りました。その結果、4つの新しいUGの立ち上げと、6つのUG改編を含めて、計23のUGがスタートすることになりました。これらのUG間の連携、UGとPFの間のコミュニケーションをスムーズに行うために、いくつかのUGをまとめたものをメタUGと定義し、それぞれのメタUGに代表者を置いて頂きました。これらの懇談会活動は、利用幹事の齋藤さん（東理大）、百生さん（東大）、高橋さん（群馬大）、稲田さん（PF）に進めて頂きました。今後、これらのUGあるいはメタUGが中心となり、競争的資金の獲得やユニークな研究教育活動を、活発に行って頂くことを期待したいと思います。

#### 2. PF 懇談会とPFの間のコミュニケーション

PFでは若槻先生が施設長に就任され、KEK/PFの将来計画に基づき、PF内の組織改編を行うと共に、ビームライン統廃合に関する議論を進めてこられました。これらの事は、直接的にユーザーに影響が及ぶため、運営委員会やUG代表者会議で何回も議論して頂きました。PF 執行部とも十分に話し合い、懇談会とPFが十分にコミュニケーションを取れるように、次の2種類の議論の場を設定して頂くことになりました。一つはPFの長中期計画に関するもので、懇談会からは懇談会長とメタUG代表者が出席し、

PF 執行部と議論するというものです。このような機会はこれまでありませんでしたが、PFの長中期計画にユーザーからの適切な意見が反映されていくということは、極めて重要なことだと思います。もう一つは、PFの短期計画、所謂ビームライン統廃合に関するもので、直接関係するUGだけでなく、サイエンスとして関連深いUGも加えて頂き、多角的に議論を行うというものです。このようにユーザー側と施設側が密接に連携することにより、全国共同利用施設としてのPFの使命である、ボトムアップサイエンスの発展を促進させることができると考えています。

#### 3. PF 懇談会からの要望書・意見書の提出

PF 懇談会から、この2年間に要望書・意見書をそれぞれ1通ずつ提出いたしました。一つ目は、昨年度初めの懇談会運営委員会において、PF 執行部よりご説明いただいた、「放射光施設の運転時間削減に対するもので、「放射光源加速器(PF及びPF-ARリング)の運転時間確保のお願い」を、下村物構研所長と若槻施設長宛に提出いたしました。本要望書では、年間最低5000時間の運転時間と4000時間のユーザー実験時間を確保してほしいと明記しました。この要望書をもって、鈴木KEK機構長に直にお願いし、また文部科学省にも出向き、ユーザーからの意見として伝えてきました。この要望書はある程度の効力を発揮したものと考えています。二つ目は、昨年晩秋にKEKロードマップ(5カ年計画)に関して、放射光ユーザーの意見が聞かれましたので、これに対し懇談会からの意見書という形で、物構研所長宛に提出させて頂きました。この意見書では、物構研の目指す将来像の明記や、PF/PF-ARアップグレード計画に関する具体的な記述を入れてほしいなどの意見を述べました。これらの要望書・意見書をまとめて分かった事は、ユーザーからの生の声をPF、KEK、さらには文部科学省へ伝えていくことの重要性です。PF 懇談会では、今後も機会を捉えて、積極的に率直なユーザーの声を挙げていって頂きたいと思います。

#### 4. その他のPF 懇談会活動報告

##### ・ PF シンポジウム

毎年3月にPFと協力して開催してきました。昨年度は、東委員長(PF)と組頭副委員長(東大工;懇談会行事幹事)が中心に準備を進められました。一昨年のシンポジウムと同様に、多くのユーザー(特に若いユーザーの皆様)に参加して頂きました。UGからのポスターセッションは盛況を極め、時間内にはごく一部しか見られないという反省点ですが、今年度への実行委員に申し送りされています。

##### ・ 放射光利用基礎講習会

足立行事幹事(PF)が中心となり、毎年9月に開催してきました。この2年間は2日間の日程を取り、放射光実験を始めようとしている学生さんを対象に、放射光実験入門から最新の放射光技術・利用研究までを、PFスタッフの方々にじっくりと講義して頂きました。1日目の夜に



PF シンポジウム懇親会で挨拶をする村上前 PF 懇談会会長（左）。

は懇親会、2日目の講義の後には見学会が開かれ、参加された学生さんは大いに満足されたことと思います（アンケート結果から分かります）。一方、改善点もいろいろ指摘していただいたので、今後の取り組みの参考にさせていただければと思います。また、本講習会のあり方について、抜本的に考え直すことも PF 懇談会幹事会では度々議論しました。これに関しては今年度からの PF 懇談会執行部に申し送ることとします。

#### ・ ホームページの整備

懇談会のホームページは、PF 内にサーバーをおいて頂く方が便利であろうということで、PF スタッフの全面的な協力を得て、千田広報幹事（産総研）を中心にホームページの移転を行いました。その後のこまめなホームページ更新は、懇談会事務局秘書の森さん（PF）に行っておりま

#### ・ PF ニュースでの情報発信

運営委員会・UG 代表者会議・懇談会幹事会の議事録や懇談会活動の報告を、随時、PF ニュースの懇談会のページに掲載させて頂きました。編集幹事として、一昨年度は伏信さん（東大）、昨年度は坂本さん（千葉大）に大変お世話になりました。

#### ・ PF 懇談会名簿の電子化

懇談会名簿は、個人情報保護法によりこれまでの冊子体での発行が困難となったことから、電子化を図り Web 上で検索できるようなシステムを導入しました。これに関しても PF スタッフの全面的な協力を得て、千田広報幹事（産総研）に進めて頂きました。昨年度末の時点で、電子化された名簿への登録数がまだ十分でなかったため、再度メールを差し上げ、掲載拒否の連絡を頂いた方以外は、氏名・所属・所属先住所・所属 UG は掲載させて頂くことにしました。

#### ・ PF 懇談会予算・決算について

原田会計幹事（PF）のご努力により、予算の執行は順調に行われました。会費未納の問題もかなり改善をしていただきました。PF からのご協力を得ることにより、健全な予算・決算状況となっています。

#### ・ PF 懇談会の会員数増加

2年前までずっと減少傾向にあった懇談会員数も、一昨年より増加傾向に転じ、昨年度はほぼ一昨年とほぼ同じ数を維持しています。今後、ますます会員数が増加するためには、懇談会に入っていることの意義を明確にする必要があります。このことは懇談会でよく議論されてきたことではありますが、引き続き検討をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、PF 懇談会幹事の方々、特に、上記の活動のほとんどに深く関与して頂くとともに、懇談会活動の全般にいつも目を光らせ、万事を補佐して頂きました、澤博庶務幹事（現、名大）と PF 懇談会事務局の森史子さん（PF）に心より感謝致します。

## PF シンポジウムに参加して

東北大理 中尾裕則

PF シンポジウムの開催の前日、部屋の電話が鳴った。どこかで、聞き覚えのある声だと思ったら PF の A さんから、突然シンポジウムの報告の依頼を受けた。ちょうど前日海外出張から帰ったところで、バタバタしていたこと、当日も最初からは出席できないため、どうしようかとも思ったが、明るく、「よろしく！」と言われてしまったので、引き受けることとなった。慌ててプログラムを調べると、これまで聞いたことがない機構長の話があるではないか。そんなこともあり、当日は仙台より始発の新幹線に乗って KEK へと向かった。なんとか 10 時前には KEK に着き、会場へ行った。まず会場の入口で、すでに数多くの人が集まっているのにびっくりした。昔は、こんなに参加者いなかったよなあ... と思いつつ会議に参加した。

早速鈴木機構長の話が始まった。「Future roadmap of KEK」が紹介され、KEK における PF の存在感が機構長の話から伝わってきた。特に印象に残ったことは、KEK が「共同利用研」という世界的にもまれな研究所であるとの指摘や、現在検討されている物構研・素核研の薔薇色の将来計画、さらにその将来計画の中で PF の計画を進めるには施設側だけでなくユーザーグループを巻き込んだ展開が期待されていることであった。ちょっと失礼だが、「高エネルギー加速器研究機構」の中で放射光施設である PF がようやく認められ、機構長のシンポジウムでの話を実現したのかなあと感慨深く聞いた。これも、下村所長、若槻施設長をはじめとした PF スタッフの日頃の努力の賜物かと。ただ、まだまだ計画段階の話、今後も計画実現に向けて頑張



KEK roadmap について講演をする鈴木機構長（右）と座長の下村所長（左）。

らないといけないなあと感じた。早起きして、頑張っけて聞きに来た価値はありました。

その後、ERL 計画の現状が紹介された。ちょうど、前日まで ERL の研究会が開かれていたこともあり、計画されている ERL の性能とともに、色々なサイエンスの可能性と問題点が紹介された。さらに光源の立場から、ERL の要素技術の開発、その問題点が紹介された。ユーザーとして自分は、リングの性能に対して不満はなく、出来たらいいなあと思うものの、ERL でしか行えない明確なサイエンスを提示できていないと自問自答し、その後現状の放射光で出来るサイエンス、やってみたいサイエンスがまだまだあるし... と言い訳した。昼食、招待講演を挟んで国際諮問委員会 (ISAC) の報告があった。電子物性分科会と医学イメージング分科会それぞれの報告と共に、ISAC の本委員会の報告がなされた。特に、KEK の中で PF の立場を ISAC 側の方が良く考えてくれていて、PF に対する応援歌を貰った感じであったとの施設長からの報告は印象に残った。

次に、「PF/PF-AR における開発状況と今後の整備計画」というタイトルで光源系からの報告があり、ユーザーとして気になる身近な話題のトップアップ運転計画の状況と、今後のスケジュールが紹介された。今のところ、ライナックが 2008 年秋運転開始、リング側としては 2009 年秋運転開始を目指していると報告された。ただ、ある装置の設置が半年遅れたために予定が 1 年遅れるということで、なんとかならないものかと議論された。すでに、SPring-8、PF のシングルバンチモードでトップアップモードでの利用が行われているが、光学系に対するビームの熱負荷が時間変化しないことによる様々なメリットがあり、PF のマルチバンチモードでのトップアップ運転にも個人的に大変期待している。また、今年度の挿入光源の作製状況も報告された。毎年、挿入光源作製のための精度の高い磁場測定が報告されるが、今年は左右円偏光を高速に切替えられる APPLE-II の作製ということで、磁場のパラメータも多くなり膨大な磁場測定を行っている様子が報告された。このような日頃の光源の方々の上の努力の上に、我々の放射光を利

用した実験が成り立っていると改めて感じた。続いて利用系の報告があり、中・長直線部への VUV-SX 専用ビームラインの建設と、目的に特化したビームラインの建設という整備戦略の元に行われているビームライン統廃合の進捗状況が報告された。ユーザーグループにとって一番身近な話題であり、色々議論がありそうなところであるが、ユーザー側からのコメントは特になかった。きっと、PF・ユーザーに納得のいく形で統廃合が進んでいるのでしょう。さらに、各ビームラインごとの進捗状況が担当者から報告された。その後、招待講演、夜の懇親会とタイトなスケジュールで進んだ。この懇親会も、奥の一般のお客さんのスペースにはみ出す程非常に多くの方々に参加されていた。宴会部長さんの配慮で、非常に多くの食べ物も用意されていたが、お酒の入った熱い議論の中、ほとんど食べ切っていたようだった。

次の日は、8:30 からポスターセッションがあり、各グループで活発な議論が行われていた。ただ、自分のポスターがあることと、時間があまりないこともあり、他の分野の発表をあまり聞くことが出来なかったのは残念であった。ここまで、招待講演については何も書かなかったが、今回の 6 件の講演はそれぞれ、今後の放射光科学の進んで行く道を作るようなお話であった。特に、4 件の発表が「時間軸」を持つ研究となっていて個人的に大変興味深く聞かせていただいた。その後 PF 懇談会総会が行われ、この 1 年間の活動報告がなされた。特に、BL 統廃合 + 将来計画への関与や、運転時間に関する要望を直接文科省まで述べに行くなどアクティブに活動していることがわかった。さらに昼食後、「PF の運営について」と題して PF 側とユーザーとの意見交換の場が持たれた。若槻施設長よりわかりやすく議題を提供されたが、ユーザー側として目先の問題（協力 BL、教育用 BL 等）に対する意見はあったものの、PF の大きな方針に対する議論は出来ていなかったようであった。とりあえず、施設長が改革を精力的に進めているところであり、お手並拝見といったところなのだろうか。シンポジウム終了後はバスがなく、皆で今後の PF の話題などしながら大穂支所まで歩いて帰った。

帰り道、何年前かをふと思い出した。そのころ PF の将来計画は毎年変わり、いったい PF はどこへ進むのだろうか？ と思った気がする。しかしながら現在、当時の混沌とした状況から脱し PF 全体として ERL+PF/PF-AR:Upgrade という方針で動いているとともに、ISAC の後押し (?) をもらいながら、KEK の中で PF の進む道を着々と作っている感がある。一方で、ユーザー側はどうだろうか？ 目前のトップアップ運転、運転時間の問題には敏感に反応するものの、ERL の利用までは中々頭が回っていないのが現状ではないだろうか。鈴木機構長の言う薔薇色の計画の実現を目指し、施設側はもちろん、ユーザー側も頑張らねばと強く感じた。

## PF 懇談会 2007 年度 第 3 回運営委員会幹事会議事録

日時：2008 年 3 月 17 日（月）17 時 30 分～19 時  
出席者：村上洋一，高橋浩，千田俊哉，澤博，原田健太郎，齋藤智彦，若槻壮市，河田洋，野村昌治，百生敦，稲田康宏，足立伸一（13 名）森史子（事務局）

3 月 18 日，19 日開催予定の PF 懇談会運営委員会および総会における本年度活動報告／議題の提案の為に報告・討議を行った。

### 1. PF 懇談会幹事報告

- (1) 会計幹事報告（原田）
  - ① 平成 18 年度最終決算報告がなされ，承認された。
  - ② 平成 19 年度収支中間報告が示され，承認された。
- (2) 行事幹事報告（足立：他会議出席中につき澤庶務幹事が代理報告）
- (3) 利用幹事報告（齋藤）
  - ① 本年度活動として UG 再編（継続・新規 UG の承認）および MetaUG 発足を報告。
- (4) 編集幹事報告（坂本：欠席につき澤庶務幹事が代理報告）
- (5) 広報幹事報告（千田）
  - ① 本年度活動として Web 名簿作成・公開。個人情報取り扱いは KEK 基準に準ずる。ただし会員への名簿掲載の可否伺いについて返事なしを否としたため，実際の掲載数が少なく，現状では名簿としての価値が低い。そこで返事なしの場合には氏名・所属・所属住所・所属 UG までは公開する，という案が討議され承認された。この案を運営委員会に提出する。なお名簿については会則に記載がないので，合わせて会則変更も運営委員会に提出することが承認された。
- (6) 庶務幹事報告（澤）

### 2. 運営委員会・総会で扱う議題の検討

- (1) PF の運営について（総会）（若槻施設長）  
若槻施設長より議論の項目が示された。今年度はこの議題に割ける時間が少ないため，議論の項目を 1 日目から受付で配布し，前もってユーザーに検討してもらおうこととなった。
- (2) 次期運営委員会・幹事会について  
本年度末で運営委員および幹事の任期が終了するため，運営委員会で次期会長の選出，総会でその紹介を行うことが確認された。

### 3. その他

特に無し。

## 平成 19 年度第 2 回・平成 20 年度第 1 回 PF 懇談会新旧合同運営委員会議事録

日時：平成 20 年 3 月 18 日（火）12 時 30 分～13 時 10 分  
場所：研究交流センターユーザルーム 2

出席者：【所外委員】村上洋一（東北大・会長），千田俊哉（産総研・広報），中川敦史（阪大），佐藤衛（横浜市立），百生敦（東大・利用），組頭広志（東大・利用），藤森淳（東大），尾嶋正治（東大），柿崎明人（東大），野田幸男（東北大），中井泉（東理大），佐々木聡（東工大），馬場祐治（原研），高橋敏男（東大），田淵雅夫（名大），渡邊信久（名大），高橋浩（群馬大・利用），平井光博（群馬大）

【所内委員】澤博（庶務），河田洋，本田融，足立伸一（行事），原田健太郎（会計），春日俊夫，稲田康宏（利用），柳下明，野村昌治，若槻壮市，伊藤健二，小林克己，飯田厚夫，森史子（事務局）

### 1. 会長報告

- 下記のように，2 年間の PF 懇談会活動が総括された。
- ・ PF 懇談会の活性化：ユーザーグループの再編成と HP の整備，現在 23 のユーザーグループと 5 つの

### PFとユーザーグループの連携について メタユーザーグループの発足

平成19年度 第1回ユーザーグループ代表者会議において発足し，その後各metaUG代表者が選出された

PF懇談会UG	物産科学	高圧	構造物性	表面科学	深層表面	物産科学	表面化学	固体分光	原子分子科学	表面AFM/STM	量子ナノ分光	軟X線発光
metaUG	metaUG代表者 竹村謙一(物材機構)						metaUG代表者 藤森淳(東大)					
PGグループ	構造物性 GL: 澤博						電子物性 GL: 那須室一郎, 柳下明					
PF懇談会UG	XAFS	マイクロビームX線分析応用	酵素回折計	小角散乱	タンパク質結晶構造解析	放射線生物	将来光源	エネルギー利用	核共鳴散乱	位相計測	低次元電子	医学利用
metaUG	metaUG代表者 田淵雅夫(名大)			metaUG代表者 三木邦次(京大)			metaUG代表者 藤井浩(群馬大)					
PGグループ	物産化学 GL: 藤田茂夫 先端技術・基盤計測・安全 GL: 伊藤健二			物質化学 GL: 原田康宏 と生命科学 GL: 加藤隆一 の両方に所属			生命科学 GL: 加藤隆一 共同利用・広報 GL: 小林克己			将来光源 GL: 河田洋		

(2008年1月)

図1 メタユーザーグループの発足

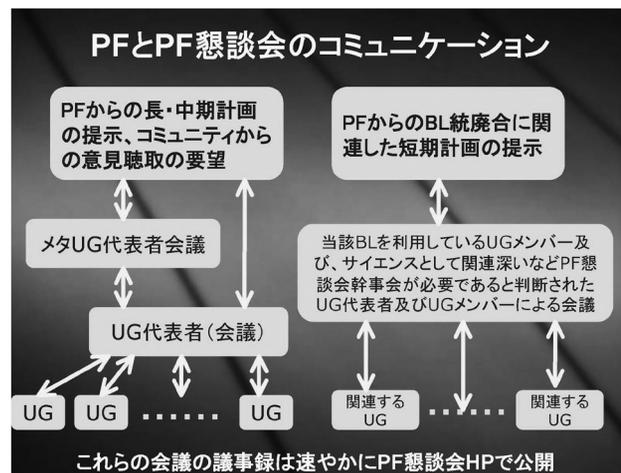


図2 PF と PF 懇談会のコミュニケーション

メタユーザーグループが組織された(図1参照)。

- ・ PF と懇談会の連携：BL 統廃合に関する議論と将来計画や研究戦略に関する議論という2通りの方法でPFと懇談会がコミュニケーションを図る(図2参照)。
- ・ PF 懇談会からの要望書、意見書の提出：運転時間確保の要望書と KEK ロードマップに対する意見書が提出された。
- ・ 会員数の推移：現状を維持している。

## 2. 会計幹事報告

- ・ 平成19年度決算報告と平成19年度収支中間報告：前年度の赤字を減らすためにPFシンポ要旨集の印刷代をPF懇談会：1，施設：4の割合で分割したため今年度は収支がほぼ釣り合った。

## 3. 行事幹事報告

- ・ H19「放射光利用基礎講習会」開催
- ・ H19「第21回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム」に組織委員として参加。
- ・ H19「第25回PFシンポジウム」実行委員長

## 4. 利用幹事報告(代理・澤庶務幹事)

- ・ 長期計画や戦略を施設側と議論する為に、いくつかのユーザーグループを統合したメタユーザーグループを発足した(図1参照)。
- ・ PF と PF 懇談会のコミュニケーション(図2参照)

## 5. 編集幹事報告(代理・岸本副編集長)

- ・ PF ニュースの発行：年4回1600部
- ・ 紙面の変更：職員名簿をグループ分けにした。
- ・ PF 懇談会から印刷費397,085円/年と原稿執筆謝金40,000円の補助を受けた。

## 6. 広報幹事報告

- ・ 会員名簿をweb化した。
- ・ 名簿の掲載人数が全会員の半数ほどなので見直す：名前，所属，所属住所，所属ユーザーグループは，特に不掲載の申し出がない限り掲載する旨のメールを全会員に送付する。
- ・ 会則の変更：個人情報管理のために会則の変更を提案し，承認された。

「個人情報の取り扱いに関しては，高エネルギー加速器研究機構個人情報保護規定の個人情報の取扱い規程に準拠して行う」を付け加える。

## 7. 次期会長の選出

村上会長から京都大学の三木邦夫氏を会長として提案され，拍手で承認された。

## 平成19年度PF懇談会総会議事録

日時：平成20年3月19日(水)11時40分～12時10分  
場所：研究交流センター交流ラウンジ1,2

1. 会長挨拶のあと各幹事報告を行った(詳細は運営委員会議事メモを参照)。
2. 新運営委員が紹介された後，次期会長として三木邦夫氏(京都大学)が運営委員会で選出されたことが報告され承認された。

## PF 懇談会次期運営委員選挙結果について

(任期：平成20年4月～平成22年3月)

PF 懇談会会則第10条および細則第4条に基づき，次期運営委員の選挙が行われた。PF 外運営委員候補者として，PF 外会員およびユーザーグループからの推薦に基づき，1月下旬に30名が選出された。その後，PF 外会員による選挙を行い(平成20年2月8日締切，投票総数173通，うち有効投票数171通)，上位得票者20名が次期運営委員として選出された。選挙管理委員は，澤博(PF)，原田健太郎(PF)，豊島章雄(PF)の各会員であった。

## PF 懇談会入会のご案内

PF (Photon Factory) 懇談会は放射光を利用する研究活動を効果的に推進するため，PF の発展，会員相互の交流，利用の円滑化を図る利用者団体です。主に次の様な活動を行っています。

- ・ 会員相互の情報交換，会員の放射光利用に関する要望のとりまとめ
- ・ ユーザーグループ活動の促進
- ・ PF シンポジウム，放射光基礎講習会などの学術的会合の開催
- ・ PF 将来計画の立案とその推進

PF での皆様の研究活動を実り多いものにするためにもPF 懇談会へのご入会をお勧めいたします。なお，ユーザーグループは懇談会の下に作られた組織ですので，ユーザーグループへの参加には懇談会の入会が必要です。

詳しくはPF 懇談会ホームページをご覧ください。

<http://pfwww2.kek.jp/pf-kondankai/index.html>

〈お問い合わせ〉

PF 懇談会事務局 森史子

029-864-5196 pf-sec@pfqst.kek.jp

**運営委員メンバー**  
(任期：2008年4月～2010年3月)

	氏名	所 属
所 外 委 員	朝倉 清高	北海道大学触媒研究センター
	雨宮 慶幸	東京大学大学院 新領域創成科学研究科
	尾嶋 正治	東京大学大学院工学系研究科
	柿崎 明人	東京大学物性研究所
	近藤 忠	大阪大学大学院理学研究科
	佐々木 聡	東京工業大学 応用セラミックス研究所
	高橋 敏男	東京大学物性研究所
	田淵 雅夫	名古屋大学大学院工学研究科
	中井 泉	東京理科大学理学部
	中川 敦史	大阪大学蛋白質研究所
	野田 幸男	東北大学多元物質科学研究所
	馬場 祐治	日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門
	浜谷 望	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
	平井 光博	群馬大学工学部
	藤森 淳	東京大学大学院 新領域創成科学研究科
	三木 邦夫	京都大学大学院理学研究科
	水木純一郎	日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門
	村上 洋一	東北大学大学院理学研究科
	百生 敦	東京大学大学院新領域創成科学科
	渡邊 信久	名古屋大学大学院工学研究科
所 内 委 員	足立 伸一	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	飯田 厚夫	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	伊藤 健二	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	稲田 康宏	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	春日 俊夫	物質構造科学研究所・ 放射光源研究系
	河田 洋	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	小林 克己	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	野村 昌治	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系
	本田 融	物質構造科学研究所・ 放射光源研究系
若槻 壮市	物質構造科学研究所・ 放射光科学研究系	

**幹事会メンバー**  
(2008年4月現在)

	氏 名	所 属
会長	三木 邦夫	京都大学大学院理学研究科
庶務幹事	足立 伸一	物質構造科学研究所
利用幹事	朝倉 清高	北海道大学 触媒化学研究センター
	手塚 泰久	弘前大学大学院理工学研究科
	中野 智志	物質材料研究機構
	五十嵐教之	物質構造科学研究所
行事幹事	栗栖 源嗣	東京大学大学院 総合文化研究科
	兵藤 一行	物質構造科学研究所
広報幹事	千田 俊哉	産業技術総合研究所
会計幹事	谷本 育律	物質構造科学研究所
編集幹事 (2008年度)	岡本 薫	(株)三菱化学 科学技術研究センター

**PF 懇談会ユーザーグループ**  
(2008年4月現在)

	ユーザー グループ	代表者氏名	所 属
1	XAFS	田淵雅夫	名古屋大学
2	酵素回折計	猪子洋二	大阪大学
3	タンパク質結晶 構造解析	三木邦夫	京都大学
4	小角散乱	平井光博	群馬大学
5	放射線生物	前沢 博	徳島大学
6	粉末回折	井田 隆	名古屋工業大学
7	高圧物性	竹村謙一	物質・材料研究機構
8	構造物性	村上洋一	東北大学
9	将来光源 高エネルギー利用	桜井 浩	群馬大学
10	表面化学	坂本一之	千葉大学
11	固体分光	藤森 淳	東京大学
12	原子分子科学	副島浩一	新潟大学
13	量子ナノ分光	尾嶋正治	東京大学
14	核共鳴散乱	小林寿夫	兵庫県立大学
15	位相計測	百生 敦	東京大学
16	低速陽電子	藤浪真紀	千葉大学
17	医学応用	松村 明	筑波大学
18	軟X線発光	手塚泰久	弘前大学
19	表面界面構造	高橋敏男	東京大学
20	固液界面	近藤敏啓	お茶の水女子大学
21	マイクロビーム X線分析応用	中井 泉	東京理科大学
22	表面 ARPES	加藤博雄	弘前大学
23	物質物理	佐々木聡	東京工業大学